

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事故概要について】

1. 事故・ヒヤリハットの別	ヒヤリハット
2. 体験した事例の名称	残雪のある山中に救助に向かう隊員が落石により負傷するおそれがあった事案
3. 体験した事例の中心的要素	山中で負傷した要救助者の救助に向かうため、救助隊員7名が残雪が残る谷間を登っている途中、溪谷の横の山から直径約30cmの落石が隊員の方に向かって勢いよく転がって来た。 落石が不規則に跳ねながら転がって来たため退避方向に迷っていると、幸いに隊員の直前で落石が岩に当たって止まった。
4. 体験した事例の原因・理由	<ul style="list-style-type: none"> ・日中の気温上昇による雪解けによって急な山肌の石が落石になりやすい状況であった。 ・隊員が落石を確認した場所周辺の残雪上には多数の石が散乱しており、地形上落石が多発している場所であった。 ・落石が発生しやすい環境状況や地形を認識して安全なルート選択をする必要があった。

【体験した事例の直接的原因について】

1. 体験した事例の直接的な原因	状況判断に問題があった。(延焼の広がりが思ったより早かった等)
------------------	---------------------------------

【体験した事例について】

1. 発生日時	令和4年5月7日 午後0時頃
2. 発生した当時の天候	曇り
3. 発生した活動現場	屋外: 山中の溪谷
4. 体験した事例の種類	回答者が、自分自身で負傷しそうになった。
5. 事故の程度(ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度)	重傷の怪我をしていた(させていた)だろう
6. どのようなことが起きたのか(起きそうになったのか)	飛来・落下ぶつにぶつかる
7. 事例体験時の活動	救助現場活動初期
8. (7の活動中)どのような作業中に発生したか	人命検索・救出
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）



○当事者A	年齢[49]歳、勤続年数[28]年、現場経験年数[15]年、階級[消防司令] 同様の活動 [過去に1,2回程]、任務 [車長]
○当事者B	年齢[43]歳、勤続年数[24]年、現場経験年数[24]年、階級[消防司令] 同様の活動 [数年に1度程度]、任務 [車長]
○当事者C	年齢[38]歳、勤続年数[18]年、現場経験年数[18]年、階級[消防司令補] 同様の活動 [数年に1度程度]、任務 [車長]
○その他(当事者が4人以上の場合)	当事者D: 年齢: 37歳、勤続: 9年、現場経験: 9年、階級: 消防士長、同様の活動: 過去に1,2回程、任務: 隊員 当事者E: 年齢: 32歳、勤続: 14年、現場経験: 14年、階級: 消防士長、同様の活動: 過去に1,2回程、任務: 隊員

11. 事例発生の経過。



	誰が(何が)	なにをした	その他・備考など
経過1	当事者C	落石を確認して他の隊員に避難を促した	
経過2			
経過3			
経過4			
経過5			
経過6			
経過7			
経過8			
経過9			
経過10			
経過11			
経過12			

【その事例発生時の状況について】



- 事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思えるか？
- ヒヤリハットの場合: ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思えるか？

集中力、注意力があった たまたま、事故にならなかった

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	はい
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・活動終息(鎮火等)や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d. 心身の不調があった。

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境(雨・濃煙)によって視界がさえぎられた。

・障害物(建物等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境(煙、暗闇、降雨等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった(寒かった)。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	はい

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった(適切な指示を与えられなかった)。

・活動指示が得られなかった。(無線が通じない等。)	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。(周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。)	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

--

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

--

○装備・資機材の対策について

--

○活動環境の対策について

--

○指揮・情報伝達の対策について

--

山岳救助再現図

